

福岡県の主要施策（令和2年度）

福岡県では、豪雨災害からの復旧・復興を加速させ、防災減災に全力で取り組むとともに、誰もが住み慣れたところで働き、長く元気に暮らし、安心して子どもを産み育てていくことができる地域社会をつくっていくことにより、地方創生を実現してまいります。

●豪雨災害の復旧・復興、防災減災

- ・被災地での園芸品目の生産に必要な施設・機械の導入等を支援します。
- ・仮住まいを余儀なくされている被災者の恒久的な住まいの確保を支援するため、引越費用や民間賃貸住宅入居時の初期費用を助成します。
- ・地域で防災減災活動のリーダーとなる防災士のスキルアップ研修等を実施します。

●誰もが住み慣れたところで「働く」ことができる地域社会づくり

- ・IoT、バイオ、水素といった先端成長産業の育成、拠点化を推進します。今年度は新たに、福岡県ブロックチェーン研究会（仮称）や福岡県宇宙ビジネス研究会（仮称）を設置し、各産業分野への企業の参入を促進します。
- ・新品種のナシ「^{ぎょくすい}玉水」の早期普及と産地形成を図るための技術開発や、首都圏での「福岡の八女茶」ロゴマークを活用したPRを実施し、ブランド力の強化、販売・消費の拡大を図ります。
- ・スマート農林水産業への転換に向けて、有明海におけるノリ漁場の海況情報をリアルタイムに把握できるシステムを導入します。
- ・旅館・ホテル等が実施するバリアフリー化などの施設整備への支援や、広域サイクリングルートの案内板、路面表示の整備など、宿泊税を活用した新たな観光振興施策を展開します。

●誰もが住み慣れたところで「暮らす」ことができる地域社会づくり

- ・「ふくおか健康ポイントアプリ」を活用した健康ポイント事業や、「ふくおかヘルシーメニュー」を活用した料理教室の開催などを通じて、健康づくり県民運動を推進します。
- ・スポーツツーリズムの推進や大規模スポーツ大会等の誘致に官民が連携して取り組む「福岡県スポーツコミッション（仮称）」を設置するとともに、トップアスリートの育成や大規模スポーツ大会の誘致・開催等を支援する「福岡県スポーツ推進基金（仮称）」を創設します。
- ・本県の文化芸術の拠点となる県立美術館のコンセプトや必要となる施設、設備、運営体制等を定めた基本計画を策定します。
- ・県内4か所の運転免許試験場に配置した看護師や保健師の資格を有する安全運転相談員が、高齢運転者やその家族の方からの運転に関する相談対応、安全運転のアドバイスを行うとともに、免許証の自主返納制度等についての周知を図ります。
- ・風力発電の普及を促進するため、メンテナンス技術者を養成する職業訓練のカリキュラム等を検討する協議会を設置するとともに、風力発電産業の最新動向等を紹介するセミナーを開催します。
- ・プラスチックの資源循環を促進するため、県民や事業者へ3Rの取組みを促す「ふくおかプラごみ削減キャンペーン」や、使用済みプラスチックの高度なリサイクル施設を整備する事業者への支援を行います。

●誰もが住み慣れたところで「育てる」ことができる地域社会づくり

- ・児童虐待防止対策の強化を図るため、児童福祉司の増員等に対応した福岡児童相談所の改修に着手し、児童相談所の体制を強化します。
- ・里親委託を推進するため、NPO等を活用し、里親の新規開拓、里親委託後のフォローアップ等の継続的な支援を行う体制を整備するとともに、里親委託児童等の高校進学、就職に係る費用の一部を助成します。
- ・新生児聴覚検査体制を充実させるため、療育開始までのフォローアップ、相談支援等を実施する「乳幼児聴覚支援センター（仮称）」を設置します。
- ・社会全体で子どもを育む機運を醸成するため、「ふくおか教育月間」（11月）に教育に関するイベントを開催します。

